

# Informatica for Amazon Web Services

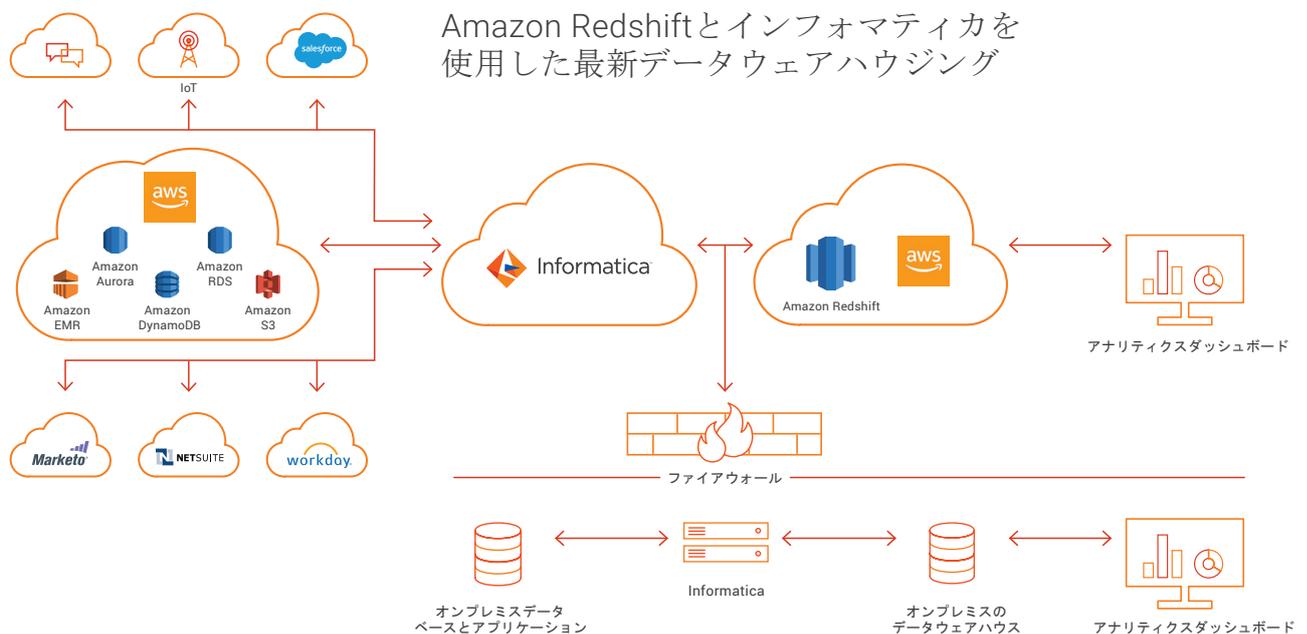
## メリット

- Amazon Redshiftによるデータウェアハウスの最新化
- AWSでデータレイクを活用し、ビッグデータからインサイトを引き出す
- 迅速かつ確実にAWSへデータを移行
- メタデータ主導AIをベースに、AWSの拡張性に最適化された Informatica Intelligent Data PlatformをAWS上で実装
- 高性能なAWSネイティブコネクタを含む、クラウド/オンプレミスソースに対応した数百のコネクタを使用して、あらゆるデータを統合
- テンプレートやウィザード、コーディング不要のデザインツールを活用して俊敏性を向上

## インフォマティカがAWSを基盤にしたデータ主導のデジタル変革を実現

今日、企業はより一層のIT投資により、データの力を最大限に引き出すことを求められています。Informatica for Amazon Web Services (AWS) を導入すれば、ビジネスを俊敏に進化させながら、必要などきに必要なサービスだけを購入し、データ管理環境を容易に拡張することが可能です。AWS データサービスをネイティブにサポートしているインフォマティカは、AWS でアナリティクスを実行するための基盤や、オンプレミスソースとクラウドソース（ソーシャル、IoT、その他のビッグデータソースなど）を組み合わせ、信頼性と関連性のあるデータをタイムリーに提供します。

多くの企業が進めているデジタル変革において、フェーズを次の段階に進めるためには、AWS 環境での新たなデータ管理ワークロードの構築と、AWS へのオンプレミスのデータ管理ワークロードの拡張または移行が伴います。ほとんどの企業では、ハイブリッド型のデータ管理アーキテクチャの導入に向けて進化しており、クラウドとオンプレミスシステム全体のデータを管理、統合することが不可欠になっています。インフォマティカは、人工知能 (AI) 主導のアプローチによってこれらのシナリオを効果的にサポートし、AWS での様々なデータ管理ユースケースを可能にすることで、企業ごとに異なる AWS への移行を促進します。



## インフォマティカとAWSの一般的なデータ管理ユースケース

オンプレミスのアプリケーションや分析環境をクラウドに移行したり、次世代の高性能ビジネスインテリジェンスをクラウドに展開することで、より優れたビジネスインサイトを獲得しようとする場合も、Informatica for AWS が支援します。

### 高い信頼性でAWSへの移行を実現

Informatica Intelligent Data Platform は、AWS への複雑なデータ/アナリティクスワークロードの移行を計画、実行することで、リスクを最小限に抑えつつ、プロジェクト期間を短縮します。また、社内全体に分散している異なるデータをカタログ化できるため、予測可能で管理しやすいデータ移行のロードマップを策定して進めることができますようになります。これは、トランザクションワークロードと分析ワークロードを AWS へ移行する上で非常に重要な要素です。

このカタログでは、CLAIRE™ エンジン（インフォマティカのインテリジェントなメタデータ主導の機械学習機能）を活用して、データの来歴や影響範囲、データの関係性を分析でき、データ移行プロジェクトのリスクを最小限に抑えて生産性を向上させます。データ移行の計画を策定したら、モジュール式ソリューションにより、Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) や Amazon Redshift などの AWS 主要サービス向けの高性能なネイティブコネクタを使用して、大量のデータを迅速に AWS へ移行することが可能です。オンプレミスデータシステムと AWS 上のデータシステムの継続的な同期化はもちろん、Data Integration (ETL / ELT) や Data Quality、Master Data Management、Big Data Management、その他のワークロードも簡単に AWS に移行できます。

### Amazon Redshiftによるデータウェアハウスの最新化

インフォマティカのハイブリッドなデータ管理ソリューションを導入すれば、Amazon Redshift で自社のデータウェアハウスを最新化し、多様なデータから実用的なインサイトを引き出して、セルフサービス式の業務要件への対応が可能になります。また、Amazon Redshift 上の新しいデータウェアハウスを迅速に統合、優れたコスト効率で大規模なデータを移行します。オンプレミスのエンタープライズデータウェアハウス (EDW) を Amazon Redshift に移行または拡張できるため、これまでの投資を無駄にすることなく、Amazon Redshift というペタバイト規模の最新データウェアハウスのメリットを存分に活用することが可能です。そして、あらかじめ組み込まれたコネクタを数多く提供しているため、クラウドまたはオンプレミスのあらゆるデータソースに接続し、簡単に Amazon Redshift に連携することができます。さらに、ETL / ELT 処理を可能にする Amazon Redshift ネイティブコネクタによって、大量データの取り込みや高性能ローディングや、Amazon Redshift へのデータ統合処理のプッシュダウン、パーティショニング、並列データ処理が可能になり、サービスレベル契約 (SLA) にも対応します。

他にも、インフォマティカのコネクタは AWS データソース用のその他の重要なデータ管理機能（データのクレンジング、重複排除、マスキングなど）を提供します。コーディング不要で役割ベースの使いやすいツール（事前定義されたテンプレート、動的マッピング、データウィザードなど）により、IT 担当者や業務担当者は、信頼できるデータを全社規模で効率的に提供できます。さらに、企業全体のメタデータ主導カタログによって、業務担当者が自身でデータ資産の検索とプレバレーションを行える統制されたセルフサービス環境を組織に提供し、IT 部門と協力してエンタープライズデータモデルを繰り返し開発できるようになります。

### **AWSデータレイクを活用してビッグデータからインサイトを引き出す**

Informatica Enterprise Data Lake により、AWS データレイクであらゆるデータ（IoT データやソーシャルデータなど）の取り込み、クレンジング、処理、統制、保護を実行できるため、より多くのビッグデータを迅速にインサイトへと変換します。また、データレイクストレージシステムとして Amazon Simple Storage Service（Amazon S3）を使用すると共に、Amazon Elastic MapReduce（EMR）による Amazon のネイティブな Hadoop 処理能力や Amazon Elastic Compute Cloud（Amazon EC2）でホスティングしているその他の Hadoop ディストリビューションを活用します。そして、より多くのソースからデータを迅速に統合すると同時に、ビッグデータを信頼できるデータ資産に変換することができます。独自のメタデータ主導 AI とエンタープライズカタログ化機能により、アナリストなどの業務担当者は、データの探索やプロファイリング、プレパレーション、保護を迅速に実行して、信頼できるビジネスインサイトを獲得できるようになります。

### **AWSのスピードと俊敏性を活かしたマスターデータ管理**

Intelligent Master Data Management（MDM）では、顧客データ、製品データ、サプライヤーデータなどの重要なデータ資産を管理および統合します。これにより、データの断片化を解消し、重要なビジネスプロセスを整流化すると共に、信頼性と関連性に優れた全社規模のデータビューを構築します。インフォマティカの MDM 機能と AWS の俊敏性を組み合わせることで、規模の大小に関係なくあらゆる企業・組織が迅速にマスターデータ管理を導入できるようになります。また、Informatica on AWS により、クラウド/オンプレミスシステムにあるデータ資産をカタログ化または探索して、業務上重要なマスターデータに関するビューを構築します。結果として、コスト削減や業務効率化による収益増加、十分な情報に基づく意思決定が可能になります。

### **AWSデータの管理と保護**

Intelligent Data Governance を導入すれば、データを常にカタログ化して、信頼性、管理性、安全性、そして規制へのコンプライアンス性を確保できます。また、AWS や他のクラウド/オンプレミスのデータソースにあるデータの探索やカタログ化、クレンジング、標準化、プロファイリング、保護なども、すべての主要な関係者が実行可能です。AI 主導のガバナンス、データ品質、データカタログ化機能により、データをインテリジェントに管理します。さらに、AI 主導のデータセキュリティ機能により可視化し、すべての AWS データサービスおよび他のクラウド/オンプレミスのデータソース全体を通じて、データの機密性に関わるリスクを分析して緩和します。

## インフォマティカについて

インフォマティカは、エンタープライズクラウドデータ管理をリードする企業であり、データ主導型のデジタルトランスフォーメーションを推進しています。企業がデータの力を引き出すことにより、俊敏性の向上、新たな成長機会の獲得、新しいソリューションの開発を実現するための洞察を通じて、インテリジェントに市場へ破壊的イノベーションをもたらす、ビジネスをリードできるよう支援します。インフォマティカは、エンタープライズ向けクラウドデータ管理ソリューションにおける信頼性の高いリーディングカンパニーであり、世界7,000社以上の企業がそのソリューションを利用しています。インフォマティカに関する詳細は、インフォマティカ・ジャパン株式会社（代表：03-6403-7600）までお問い合わせいただくか、Webサイト [www.informatica.com/jp/](http://www.informatica.com/jp/) をご覧ください。

## AWSデータ管理向けインフォマティカソリューション

包括的な機能セットを備え、メタデータ主導の人工知能（AI）を中核としているインフォマティカの Intelligent Data Platform は、クラウド/オンプレミス/ハイブリッドのデータ管理環境において、あらゆるデータソース、すべての主要なデータ統合と管理パターン、またあらゆるユーザーとレイテンシーをサポートします。このプラットフォームには、Data Integration、Big Data Management、Master Data Management、Enterprise Data Catalog、Data Lake Management、Integration Hub、Data Quality、Data Security などが含まれています。また Amazon Redshift、Amazon Redshift Spectrum S3、Amazon Aurora、Amazon RDS、Amazon DynamoDB、Amazon EMR、Amazon Quick Sight など主要な AWS サービスをネイティブでサポートするだけでなく、クラウド/オンプレミスのデータシステム向けのあらかじめ組み込まれたコネクタも数多く用意されています。

AI 主導、視覚的、役割ベースで使いやすいインフォマティカのツールは、開発者や一般の統合担当者の生産性を高めます。また、データのカバレッジや品質、マスター管理、セキュリティに必要なデータの可視性を確保するための基盤となります。さらに、パーティショニングやクラスタリング、プッシュダウン最適化など、クラウドの拡張性をベースに構築されているだけでなく、運用における障害が業務上の損失につながる前に特定・解決するためのプロアクティブな監視ツールによって、信頼性の高い運用環境を提供します。

インフォマティカの製品は、従量制（PAYG）モデルやライセンス持ち込み（BYOL）モデルなどの柔軟なオプションによって AWS Marketplace で簡単に購入して実装できるので、インフラストラクチャの構築に時間やコストをかける必要がなくなるだけでなく、AWS でインテリジェントなデータ管理ソリューションを迅速に立ち上げて、信頼性と実用性に優れたデータから最大限のパワーをコスト効率良く引き出すことが可能になります。

AWS を使用してデータのパワーを最大限に引き出す方法の詳細は、下記のリファレンスアーキテクチャガイドをご覧ください。

- [Cloud Analytics for Amazon Redshift リファレンスアーキテクチャ\(英語\)](#)
- [Data Lake Management on AWS リファレンスアーキテクチャ\(英語\)](#)



Informatica パートナー

インフォマティカ・ジャパン株式会社

〒105-6226 東京都港区愛宕 2-5-1

愛宕グリーンヒルズ MORI タワー26 階

電話：03-6403-7600(代表) FAX：03-3433-1031

<http://www.informatica.com/jp/>